

いつもお世話になっております。

今月分の請求書を送付いたしますので、何卒御査収のほどよろしくお願い申し上げます。

いつもありがとうございます。

立春の頃が一年で一番寒い時期・・・のはずですが、中旬あたりからは過ごしやすい日々が続いており、うれしいかぎりです。
みなさまはいかがお過ごしでいらっしゃいますか？

子供の頃、節分といえば豆まきが主流でしたが、近頃は「恵方巻き」が全国的に定着してきたようです。

関西地方でも特に大阪の風習だったそうで、大阪に住むまで聞いたこともありませんでしたが、いつの間にか全国に知れ渡り、今年はテレビ番組でも頻繁に取り上げられていたように思います。

バレンタインデーのチョコレートが製菓業界の販売促進からはじまったり、土用の丑の日のうなぎが、夏場の売り上げUPを狙った平賀源内の発案だったりと同様に、恵方巻きも大阪の寿司・海苔組合の販売促進活動の一環から一般に広まった風習です。

恵方というのはその年の幸運を司る「歳徳神」のいる方角のことで、その方角に向かって事を行えば万事に吉とされる縁起のよい方角です。節分は終わりましたが、もし今年初めてのことがあれば、西南西をむいて行くと吉ということです。

運を巻き込むという意味と縁を切らないという意味が込められている巻き寿司を、節分の夜に恵方をむいて笑いながら食べるとか、最後まで無言で食べるとか様々な説を聞きますが、切り分けずに1本丸かじりで食べるというのが決まり事のようにです。

何年前までは、丸かぶりしやすい細めや短めの巻き寿司が目につきましたが、今年の恵方巻きはバラエティに富んでいました。丸かぶりには不向きなサイズ感だけでなく、ロールケーキ、トルティーヤ、生春巻きなど巻いていけばOKという発想になっていました。

クリスマスやハロウィンといった西洋の文化も、元来の意味はすっかり色あせて、日本ならではの祭りの日&消費意欲が高まる日になっていますし、バレンタインデーは、日本独自の「女性から男性に愛を告白する日」という位置づけを超えて、義理チョコに発展し、さらに友チョコ、自分チョコへと多様化しているように、日本人は各業界の戦略にのりつつ、イベントをアレンジしたり、新しい解釈をしたりして、興じるのが好きなのでしょうね。来年の節分には、もっと進化した面白い恵方巻きが出てくるかもしれませんね。

春まであともうすこし。うれしい反面、すでに花粉症に悩まされている方も多いかとおもいますがどうぞご自愛いただき、すてきな春をお迎えくださいませ。



2月の恒例、大阪城の梅園より
今年も満開には程遠いチラホラ咲き。



梅の枝モチーフの街灯を発見
いままで見逃していました

